

バイオクライマティックデザイン小委員会 2007 年度 第 5 回 議事録

- A. 日時： 2008 年 3 月 11 日（火）17:00～19:00
場所： 建築会館 会議室 301
- B. 出席者： 長谷川兼一（秋田県立大学）、菅原正則（宮城教育大学）、斉藤雅也（札幌市立大学）、鈴木康司（OM 計画）、鈴木信恵（武蔵工業大学）、須永修通（首都大学東京）、廣谷純子（オーガニックテーブル（株））、深沢たまき（首都大学東京）
8 名（敬称略、順不同）
- C. 資料： 07-5-0 バイオクライマティックデザイン小委員会 2007 年度第 5 回議事次第：宇野
07-5-1 バイオクライマティックデザイン小委員会 第 4 回 議事録（案）：宇野
07-5-2 出版準備のための事例リスト(v2)：長谷川
- D. 審議事項：
1. 前回議事録（資料 07-5-1）の内容を確認した。
一部修正・加筆し、委員会 Web に掲載する。
 2. 出版に向けてのフリーディスカッション
 - ・資料 07-5-2「事例リスト v2」の全体説明（長谷川）
 - ・事例リストにあげられた 34 の建築事例について個別説明（斉藤、廣谷、OM 鈴木、長谷川）
（以下、自由放談形式、口述順）
 - ・対象建築事例を絞り込むためには、読者ターゲット、目的をハッキリさせたい（須永）。
 - ・事例リストの横の欄に加えたら良いと考えられる項目としては、「建築的な特徴（環境に配慮した面だけでなく）」「測定データがあるか否か。それらが公表されているか否か」「受賞歴」などがあるのではないか（須永、長谷川、斉藤ほか）
 - ・“環境建築”の年表を作成しても面白い。武蔵工業大学の中村美和子さんまとめた年表が JIA 環境建築ガイドブック（前回参考本として提示）にでている。（廣谷）。
 - ・建築の履歴（歴史を重ねている建物）がわかることが面白いのではないかと。10 年前、20 年前に建てられた建物がいまどうなっているか？が興味がある（鈴木・武工大）。
 - ・環境工学者（または建築家）が自邸を設計して、自身で環境測定を試みている例にスポットを当ててみることは面白いと思う（菅原、OM 鈴木、廣谷）
 - ・出版の対象となる建築事例の熱環境の測定データが出されていること、今までの出版とは明らかに異なる内容と思う。また測定方法としては、（環境工学者が行なうような精緻な方法でなくとも）素人でも試みることができる簡易な方法を示すことも必要ではないか（鈴木・武蔵工大、廣谷）
 - ・国、行政が取り組まないといけないと考えられている内容についても踏み込んでみてはどうか？たとえば、CO₂やランニングコストの話など（OM 鈴木）。
 - ・手塚貴博氏の「デッキによる屋上断熱」などの事例のような、建築デザインと建築環境工学

- の繋がりを見せることができたなら良いように思う（武蔵工大・鈴木）
- ・ハウジング・フィジックスの動きも参考になるのではないかと（須永・深澤）
 - ・かつて、有名建築家の卒業作品を振り返る特集がありおもしろかった、当時、建築家が学生時代にどのような思考プロセスに基づいて計画したのか、ルーツを探ることが面白いのではないかと。いまの自分ならAという方法をとらないでBという方法を採用していたかも知れない。などの意見があると後身は参考になる（武蔵工大・鈴木）
 - ・古い建物の履歴がおもしろいだろう。事例集を作ってもすぐに古くなっていく。新しい建築は新技術が入っている。パッシブデザインの原理原則がある。これら入り組んだ情報をどのようにわかりやすくみせることができないか。（須永）
 - ・建築は敷地の上にリアルに建っている。したがって、その土地のポテンシャルをどのくらい引き出しているか？が結局のところ一番大事なことになるのではないかと。ある建築事例が、環境工学というマップにおいては、どのようなプロットが置けるか？それをハッキリさせることが大事なのではないか（OM鈴木）
 - ・“環境工学って何なの？”という質問に呼応する本にしたい。古いヒトは何を考えて何をつくってきたの？地域性で分類した事例紹介的な本といったイメージはあまり強くもっていないが（廣谷）でも地域性は大事だろう（OM鈴木、長谷川）
 - ・“環境工学って役に立つのだな”という本を作ればよいのではないかと。“あ、こうやればいいのか？”と思ってもらえる本がいい（須永）
- ・編集者に早い段階で入ってもらっても良いかも知れない（廣谷）。
- ・あまり早い段階から入ってもらえると編集者の方針に引っ張られる可能性があるかと（深澤）
- ・荒谷先生が（北海道で）実践されているジャガイモの氷温貯蔵システムなどのように、環境技術が、（ジャガイモの美味しさを保存して出荷できる）実利的な側面も生み出している事例がある。そのような実利面ももっと表に出してみてもは？（OM鈴木）
 - ・自分自身がどのように居住環境を感じているか、自身の“環境感覚”を奮い立たすような体験が必要ではないか。実利面よりも、環境性能の捉え方を記述する必要があるのではないかと（廣谷、武蔵工大・鈴木）。「体験型学習」でしょうか？（OM鈴木）
 - ・OMの鈴木さんがいわれた「実利的な面」には、廣谷さんや鈴木さん（武蔵）の言われる「環境性能の価値や体験型学習」が含まれているという解釈で良いのではないかと？出版物の紙面でそれを表現し、読者に伝えることはなかなか難しいかも知れないが、やるだけの価値はあるように思う（齊藤）
- ・これまでの話を少し整理したい。小学生や中学生にもわかる本（絵本的）なところ（入門編）の話と、技術的な話（いままで環境工学的）の二部構成でやったらどうか？（須永）
同じ建物でも双方の見せ方があるほうが良いのではないかと（武蔵工大・鈴木）
 - ・教科書と事例集の間を目指したらいいのではないかと。建築家は部材から説明されるとわからないことが多いリアルな話から入った方がいい（廣谷）普遍的な話と建物特有の特徴を双方が出ていると良いのではないかと（齊藤）解体してメカニズムをみせる話、話題性のある話、歴史的な繋がりを見せる話（廣谷）、過去の環境建築を解体する、環境建築に住んだことのあるお施主さんの住みこなし術の話を、見方を変えて見せ

てはどうか（武蔵工大鈴木）、一般解と特殊解をみせる方法がよいだろう。また、改修の事例は必要だろう（須永）

- 事例のターゲット：非常に一般的な事例、特殊事例を並べる。過去の建築、環境工学者の自邸、話題性のある建築（居住者からみて良いと思う事例、現代建築家の事例、改修事例）
- 読者ターゲット：環境建築を本気でやりたいひと。環境工学って役に立つ！「環境工学をやさしく伝える」という表現は「手を抜いて伝える」というようなネガティブなイメージをもたれるのかもしれないので、タイトルに採用する言葉は慎重に選びたい（廣谷）
- 企画書（構成内容）を作成して次回に臨みたい（長谷川）

F. 次回委員会の予定：

日時：2008年4月11日（金）17:00～19:00

場所：建築会館 会議室

内容：①出版本の企画書（構成内容）について

②話題提供

- 1) PLEA2008 の紹介：須永
- 2) シンガポール国立図書館（環境配慮型建築）：須永
- 3) 札幌市円山動物園 類人猿館屋外放飼場のエコ改修：斉藤
- 4) その他

作成：斉藤雅也 2008年3月11日